

## 寅さん歩 その 26

### 東京の主要道路の起点～終点

### 日比谷通り－2



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」と歩いてきました。

今回は「日比谷通り」を歩いています。日比谷通りは千代田区大手町の神田橋から港区芝五丁目交差点で第二京浜と合流するまでの延長約5kmの道です。写真上右は日比谷交差点以降の日比谷通りの道路名標識（都道409号線）です。旧江戸城（現在の皇居）を右手に見て、大手町・丸の内の日本を代表するビジネス街を通り抜け、芝公園方面へ向かいます。前は起点から帝国ホテル・鹿鳴館跡まで歩きました。

今回は帝国ホテル・鹿鳴館跡から終点まで歩きます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部以前に訪問時の写真もあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

**[帝国ホテル・鹿鳴館跡]** 千代田区内幸町一丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 日比谷駅

890年（明治23年）11月開業の「帝国ホテル」は日本を代表する高級ホテルです。現在のインペリアルタワー（写真下左）は2016年（平成27年）にリノベーションしました。

写真下右は帝国ホテルの隣のビルの塀にひっそりとある「鹿鳴館跡」の案内板

です。鹿鳴館は幕末に交わされた不平等条約改正の一助にするべく 1883 年（明治 16 年）建造されたレンガ造り 2 階建の西洋館で、皇族・華族や政府高官らが欧米の外交官や商人を招き、連日のように舞踏会や園遊会を催しましたが、成果は上がり、わずか 4 年間の鹿鳴館時代でした。



寅さん歩 189 東京にこんなところ-19の鹿鳴館跡・内幸町境界をご覧ください。

### [西新橋交差点] 港区西新橋一丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 内幸町駅

内幸町交差点を過ぎると港区に入ります。西新橋交差点（写真下右）で外堀通り（都道 405 号線）と交差します。左へ行くと新橋方面、右へ行くと四谷方面です。



### [新橋四丁目交差点] 港区新橋四丁目 最寄駅 JR 新橋駅

新橋四丁目交差点（写真下右）で環二通り（都道 405 号線）と交差します。左へ行くと汐留方面です。



交差点を右へ行くと虎ノ門ヒルズ方面（写真下左）です。写真下右は交差点を渡った角にある「浅野内匠頭終焉の地」の碑です。「田村右京大夫屋敷跡で江戸城松の廊下で吉良上野介に刃傷に及んだ浅野内匠頭は預けられたこの地で即日、自刃せし所」との案内板がありました。



### [御成門交差点] 港区芝公園三丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 御成門駅

御成門交差点（写真下右）を左へ行くと浜松町一丁目方面で第一京浜（国道 15 号線）に合流、右へ行くと神谷町方面です。日比谷通りも終点の芝五丁目でも第一京浜（国道 15 号線）に合流します。東京タワーが近くなりました。



交差点を右折して、左側を行くと「御成門」が（写真左）があります。



御成門は増上寺の裏門として造られました。将軍が参詣する際にもつばら用いられたので「御成門」と呼ばれるようになったそうです。初めは、現在の御成門交差点にありましたが、道路建設で現在地に移転しました。関東大震災や太平洋戦争の戦火から難を免がれています。周囲は柵に囲まれていますので、柵の間から撮影しました。

## [東京タワー] 港区芝公園四丁目 最寄駅 都営地下鉄三田線 御成門駅



「東京タワー」は1958年（昭和33年）12月23日竣工の日本電波塔です。電波塔の役目は2020年（令和2年）3月31日、東京スカイツリーへ移管して終了しましたが、東京の観光名所として今でも多くの人に親しまれています。写真左は日比谷通りからプリンスホテル越しに見る東京タワーです。温かさを感じさせるその姿は昭和育ちの寅次郎は大好きです。

## [増上寺] 港区芝公園四丁目 最寄駅 都営地下鉄三田線 芝公園駅

「増上寺」は1393年（明徳4年）創建の浄土宗鎮西派の大本山です。当初は麴町に建てられ、日比谷を経て1598年（慶長3年）当地へ移ったと伝わります。1590年（天正18年）徳川家康が初めて江戸入りした時に日比谷の増上寺の門前で当時の住職だった存応和尚が出迎えたのが、きっかけで徳川家の菩提寺となり、勢力を誇った寺です。存応和尚は岡崎（家康の生まれ故郷）大樹寺（徳川家の先祖の松平家の菩提寺）の住職感応の弟子なので偶然の出会いで徳川家の菩提寺が決まったとは思えません。写真下左は門前の壮大な山門（三解脱門）、写真下右は巨大な本殿（本堂）で東京タワーに負けていません。三解脱門（さんげだつもん）は別名「三門」と呼ばれ、国の重要文化財です。三つの煩惱「貪欲（どんよく・むさぼり）、瞋恚（しんに・いかり）、愚痴（ぐち・おろかさ）」の

三悪を解脱する悟りの境地を表しています。



境内の「徳川家の墓所」には2代秀忠、6代家宣、7代家継、9代家重、12代家慶、14代家茂の6人の将軍が眠っています。他の6人の将軍は3代家光が天海僧正に命じて建立した徳川家の菩提寺 上野寛永寺に眠っています。なお、初代家康は日光東照宮、15代慶喜は谷中霊園に眠っています。

三解脱門前の大門通りを行くと、現在のJR浜松町駅手前に「大門」があります。とにかく江戸時代の増上寺の敷地の広さに驚きます。

三解脱門の前は港区役所です。寅さん歩 244 官公庁の食堂めぐりー8 港区役所をご覧ください。東京タワーを見ながらの食事ができます。

## [芝公園・芝東照宮]

「芝公園」(写真下左)は1873年(明治6年)明治政府により増上寺の境内の一部を公園として開放されたものです。ここでも増上寺の敷地の広さが偲べれます。



「芝東照宮」(写真上右)は東照大権現という神になった徳川家康を祀る社で、増上寺の境内にありました。明治の神仏分離で増上寺から分かれ、神社として独立。戦災で焼失、現在の社殿は1961年(昭和36年)に再建されたものです。裏山は芝丸山古墳です。古墳の裾には貝塚もあり、縄文時代から人々が住んでいたことが証明されます。

**[芝園橋]** 港区芝一丁目 最寄駅 都営地下鉄三田線 芝公園駅

都心環状線の下にある「芝園橋」(写真下左)の橋名の由来は1926年(大正15年)1月に古川(写真下右)にかけられた芝公園の橋とのことです。



**[薩摩藩邸(上屋敷)跡]** 港区芝三丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 三田駅

芝三丁目交差点(写真下左)の右前はNEC本社ビルです。交差点を右に行くと左側の植え込みの中に「薩摩屋敷跡」の案内板(写真下右)がありました。平成3年1月 西郷吉之助書とあり戸惑いましたが、帰って調べると同名の通称を持つ、西郷隆盛の孫にあたる人物だそうです。



## [芝五丁目交差点] 港区芝五丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 三田駅

芝五丁目交差点（写真下左）で第一京浜（国道15号線）と合流、日比谷通りは終点です。左へ行くと新橋方面、右へ行くとJR田町駅方面です。



## [こぼれ話] 西郷南洲・勝海舟会見之地



芝五丁目交差点に「江戸開城 西郷南洲・勝海舟会見之地」の碑）がありましたが、現在は碑があった後ろのビルが大規模商業ビルの工事中（完成予定は令和5年5月末）で白いフェンスに写真上の説明板が掲示してありました。

ここは薩摩藩蔵屋敷があった場所で、1868年（慶応4年）3月14日、江戸城の

開城をめぐる西郷隆盛と勝海舟が会談を行いました。  
その結果4月11日江戸城は薩長軍に明け渡されて江戸の町が火の海になることは避けられました。

これにて日比谷通りの起点から終点まで歩きました。江戸時代からの中心だった地なので見所は多いですが、今回の見所は日比谷通りに面したもの・すぐ近くのもののみを取り上げています。他に興味ある場所は別の機会に訪問してください。

## [バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク 松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。

全行程約600里(約2400km)の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022年4月26日、江戸深川(現在の江東区深川)を出発、2022年11月27日羽黒山(現在の山形県鶴岡市羽黒町)(江戸深川から1,016km)に到着しました。八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

6月3日 羽黒山権現別院、4日 本坊にて俳諧興行。

「ありがたや 雪をかをらす 南谷」

(注釈: ああ尊くも有難いことよ。この南谷の別院には、下界の暑気をよそに、真夏の南風が霊山の残雪の香をかおらせて、清浄の気がみなぎっている)

)

5日 羽黒権現に参拝、6日 月山登山、7日 湯殿山へと下り、夕刻、南谷に帰る。

三山(羽黒山・月山・湯殿山) 巡礼の句

「涼しさや ほの三日月の 羽黒山」



(注釈：忍び寄る夕闇の中で木立の陰も黒々と静まり返った羽黒山の上に、三日月が淡く浮かんでいるのがほのかに見える。いかにも神秘的な、心の中も清く涼しくなるような眺めだ)

「雲の峯 いくつ崩れて 月の山」

(注釈：盛夏の炎天に空高く立ち上がっていた雲の峯が、いくつ崩れて、この月光に照らされ雲間に神々しくそびえたつ月山となつたであろうか。まことに天の一部が崩れて地上に築き上げたかと思われるばかりの雄大森厳な山の姿である)

「湯殿山 錢踏む道の 涙かな」 曾良

(注釈：湯殿山では地へ落ちたものを拾ってはならぬ掟で、地上におびただしく落ち散った賽銭の上を踏んで参詣するにつけても、この霊山の超世間的な汚れない尊さに思わず銭ならぬ感涙が落ちるのだった)

曾良は同行の弟子です。三山巡礼には、今日の観光旅行とは違った宗教的意味があり、山中の微細については他言を禁じた行者の掟に従ったものである。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようにお願いします！

平野 寅次郎 拝